

岩倉川を中心とした里山の自然を学ぶ理科プログラムの研究

身近な自然が人をつなぐ



岩倉川探検隊

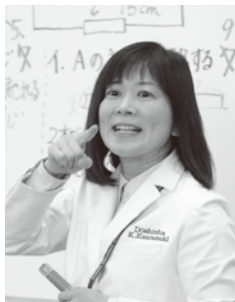
私立校・公立校の垣根を越えた交流を

京都市北郊の岩倉川は、急速に発展した住宅街にある河川ながら、ホタルが生息するほど良好な環境が保たれてきた。その川沿いにある同志社小学校では、対岸の京都市立岩倉南小学校、および京都水族館と連携した自然教育プログラムを実施している。担当の川崎公美子教諭は、「私立と公立ということもあって、近くの小学校同士なのに、これまでは接点がありませんでした。そこで、身近な岩倉川を題材とした交流を考えたのです」と話す。

こうして、川の生き物調査などを実施することにしたが、私立校と公立校ではカリキュラムの自由度などに違いがある。そのため、まずは同志社小で企画を立て、無理のない範囲で岩倉南小が協力する形をとった。



同志社小学校



●実施担当

川崎公美子 教諭

●活動のモットー

“本物体験”と“児童自身の気づき”を大切にしている。答えを教えるのではなく、試行錯誤を重ねる過程を見守るよう心がけている。



岩で流れをせきとめて魚を採る作戦



生き物がたくさん



濡れるのも平気

児童の成長が促した学校同士の相互理解

両校の4年生以上の児童で結成した「岩倉川探検隊」による川の生き物調査は計7回行われ、延べ200人が参加した。このほかにも「昆虫のお話し会」などを実施。川崎教諭は「活動を通じて、児童たちは生態系への理解を深めていきました」と語る。

児童の成長に促されるかのように、学校同士の相互理解も深まっていった。2017年度中には、両校の4年生全児童による学習交流会が実現したほか、今後は避難訓練や防犯対策での連携も期待されている。さらに、交流の輪は地域を越えた広がりも見せつつある。昨年12月に中谷財団の「科学教育振興助成」成果発表会に参加した際、同志社小の児童たちは他校の児童と交流を持った。特に、同じ身近な川を研究テーマとする大牟田市立吉野小学校とは教員同士が連絡を取り合っており、両地域の自然の比較調査などのアイデアも上がっている。（平成29年度意欲的な小学校の先生方を支援するプログラム助成）

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人

中谷医工計測技術振興財団 〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

シスメックス株式会社創業者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。医工計測技術分野の発展を願い、「中谷賞」をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、科学教育振興活動などに対し、幅広い助成事業を行っています。

中谷財団

検索